町職員による救援物資の積み込み

能登半島地震被災地へ 救援物資を発送

3月29日、町は、能登半島地震で被災した石川県の輪島市と志賀町、穴水町へ救援物資を送りました。

物資は、昨年の豪雨災害の体験を基に取り扱いやすく必要な米（奥さつまヒノヒカリ）500kgとペットボトル500㎖入りのミネラルウォーター（紫尾温泉水）を720本準備しました。

発送式で、山下副町長は「1時間でも早く物資が届き、少しでも元気を出してもらえるよう祈っている」とあいさつし、職員が物資をトラックへ積み込み発送しました。

大きく育て 川内川に稚アユ100kg放流

4月4日、川内川本流で川内川漁業協同組合（田渕政春組合長）による、稚アユの放流が行われました。

体長5cmほどのアユが宮之城地区に60kg、山崎地区に40kg、合計2万5千尾放流されました。

また、薩摩・鶴田地区に35kgの放流を予定しています。

放流されたアユは6月の解禁時には15cmほどに成長します。

6月3日には、湯田河川広場で第1回川内川鮎まつりが開催され、鮎の塩焼きなど楽しい催しが行われる予定です。

川内川に稚アユを放流する組合員の小牧早則さん（宮都大橋下）

曲に合わせて踊るふれあいサロンの会員

長寿の祝いと花見兼ね 水害復興祭

4月1日，轟原公民館で，長寿の祝いと花見を兼ねた水害復興祭が行われました。

昨年の豪雨で，床上1.9mまで浸水した公民館は，地域コミュニティー活動の中心的存在です。水害の後，住民総出の復旧作業により使用できるようになりました。

復興祭では，同公民会の東里歌子さんが，被災直後の様子や多くの人たちに支えられた感謝の気持ちを書き記し，昨年の南日本子ども新聞に掲載された「みんながくれた元気」を朗読し，復興に向けて気持ちを新たにしました。

また，みんなが力を合わせて安心して楽しく暮らせるよう，子ども五つ太鼓やふれあいサロンの踊り，鷹踊りなどが披露され，世代間の交流を深めました。

甘い香り漂う 完熟マンゴー収穫祭

4月5日、平成19年産マンゴー収穫祭が祝迫直人園（新生地区）で行われました。

町内の栽培面積は、7人で99a（うち結果樹園59a）です。本年販売予想量7・7トン、販売金額2,310万円を見込んでいます。

本年産は、夏場の高温多湿の影響から開花がばらつき着果に苦労しましたが、昨年を上回る生産量で、市場の評価も高く、高値での販売が期待されています。

出荷先は、主に農協を通じて鹿児島や大阪の市場などで販売されますが、町内の各直売所などでも販売されています。

赤く熟したマンゴーを手にする関係者